

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：34534

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12602

研究課題名(和文) ラオスにおけるストーマケアシステムの構築とその評価に関する研究

研究課題名(英文) Research on establishment and evaluation of stoma care system in Lao PDR

研究代表者

古川 智恵 (Furukawa, Chie)

姫路大学・看護学部・准教授

研究者番号：20742513

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ラオスにおけるストーマケアシステムの構築とその評価を行うために、ラオスのストーマ手術の状況の把握と看護師のケアの実態の把握、基本的なストーマケアの知識・技術の教授、ラオスにおけるストーマケアを構築するための課題の検討を行った。～で実施した取り組みの課題の検討を踏まえて、看護師へのストーマケア教育としてDVD動画を作成しているところである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、ラオスで実施されているストーマ造設手術を受ける患者のケアに看護師が主体的に関わる必要性について、看護師自身でその役割を見出し、根拠をもって関わることで看護師のケア技術の向上につながった。また、看護師教育を実践するうえで、ラオス人の特性に応じた指導方法を構築する必要性があることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In this study, we conducted the following three points to construct and evaluate a stoma care system in Lao PDR.(1) Grasping current nursing care of ostomy surgery in Lao PDR(2) Teaching basic ostomy care knowledge and skills(3) Investigating of issues for establishing ostomy care in Lao PDR(4)Based on the results, we have been making a DVD video for stoma care education for nurses in Lao PDR.

研究分野：成人看護学

キーワード：がん看護 ストーマケア 看護師教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

これまで開発途上国に対するストーマケア教育の支援に関する報告はほとんどない。このような状況に対して、我々はすでにラオス首都ビエンチャンにある病院の看護部の協力を得て看護支援に関する調査および教育を行ってきた。さらに、ラオスが医療支援を受けている隣国であるタイ国でのストーマ造設患者に対するストーマケアの現状について調査を行ってきた。このような調査の機会に、ラオスでは、ストーマケアが確立しておらず、看護支援が全く行われていないことを知った。

多くの先進国ではストーマケアを専門とするストーマケア教育が進んでおり、ストーマ造設患者は専門家の指導を受けながら社会復帰を果たし、日常生活で生じる様々な問題に対して対処を行っている。しかしラオスでは、ストーマケアの専門家がいなくても、看護師の国家試験制度がないため、看護教育制度も未整備であり、看護師の役割が医師の診療の補助にとどまっているのが現状である。ストーマ造設患者は、ストーマケアが行われなかったためにストーマの周囲の皮膚障害や排泄物のおいにより日常生活に影響が出てくる可能性がある。さらに、ラオスの国民性が影響することも考えられる。したがって、ラオスのストーマ造設を取り巻く環境は日本の場合と異なり、ストーマ管理やストーマ教育のあり方も違ってくると思われる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ラオスにおけるストーマ造設患者が抱えている問題点を明確にし、適切な介入プログラムとしてストーマケア教育を構築し、その効果を検討することである。

3. 研究の方法

(1) 研究参加者

研究参加者は、本研究に参加意思があった腹部外科病棟、泌尿器科病棟、小児科外科に勤務するストーマケアに関心のある看護師 43 名とした。参加者の抽出方法はカウンターパートである A 病院副看護部長に一任した。

(2) データ収集方法

調査は自記記入式質問紙調査法により実施した。質問紙は、Keller が提唱する ARCS モデル¹⁾をもとに作成した。さらに、ストーマケア演習の評価とストーマケア演習を通しての気づき・学びについて自由記載も加えて調査した。

(3) データ分析方法

統計学的分析には統計解析ソフト IBM SPSS Statistics for windows 25.0® を用いた。自由記載については、質的記述的研究の手法を用いて分析し、ラオス語から英語、英語から日本語、またはラオス語から日本語への変換については、ラオス語に精通した共同研究者のスーパーバイズを受けて、カテゴリーの信頼性の確保のため、研究者間でデータを何度も繰り返し読みながら分析を行った。

(4) 倫理的配慮

研究は、研究者が調査当時所属していた看護系大学の研究倫理審査委員会での承認（承認番号：100）を得たあと、研究協力施設の院長および看護部長の許可を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 研究参加者の概要

看護師経験年数は、1～3 年が 8 名 (20.0%)、3～9 年が 20 名 (50.0%)、10 年以上が 12 名 (30.0%) であった。参加者の性別は、男性 5 名 (12.5%) で女性が 35 名 (87.5%) であり、年齢は 30 歳代が最も多く 15 名 (37.5%)、次いで 40 歳代 14 名 (35.0%) であった (表 1)。

(2) ストーマケア演習の評価 (看護師経験年数別 ARCS 得点の比較)

看護師経験年数別 ARCS 得点の比較を表 2 に示す。得点範囲は 1-4 点で得点が高いほど評価が高いことを示している。「1～3 年」では、「過程の楽しさ」の中央値が最も高く、次いで「好奇心」と「関連」であった。「4～9 年」および「10 年以上」では、16 項目すべてにおいて中央値は 3.0 であった。さらに、参加者の学習への動機づけの 4 下位尺度の 16 項目のそれぞれの項目間について検討した結果、「面白さ」(p<0.03) と「過程の楽しさ」(p<0.01) の 2 項目で有意差を認めた。

		n=40
看護師経験年数	1～3年	8(20.0)
	4～9年	20(50.0)
	10年以上	12(30.0)
性別	男性	5(12.5)
	女性	35(87.5)
年齢	20歳代	10(25.0)
	30歳代	15(37.5)
	40歳代	14(35.0)
	50歳代	1(2.5)

数字は人数（ ）内は%を表す

		n=40		
		1～3年	4～9年	10年以上
注意 (attention)	面白さ*	3.0(3.0-3.0)	3.0(3.0-4.0)	3.0(3.0-4.0)
	眠さ	3.0(3.0-4.0)	3.0(3.0-4.0)	3.0(3.0-4.0)
	好奇心	3.5(3.0-4.0)	3.0(3.0-4.0)	3.0(3.0-4.0)
	変化性	3.0(2.8-4.0)	3.0(3.0-3.3)	3.0(3.0-4.0)
関連性 (relevance)	やりがい	3.0(3.0-3.3)	3.0(3.0-4.0)	3.0(2.0-3.0)
	関連	3.5(3.0-4.0)	3.0(3.0-3.3)	3.0(2.8-3.0)
	有益さ	3.0(3.0-3.3)	3.0(3.0-4.0)	3.0(3.0-3.0)
	過程の楽しさ*	4.0(3.0-4.0)	3.0(3.0-3.0)	3.0(2.8-3.0)
自信 (confidence)	自信	3.0(3.0-3.0)	3.0(3.0-3.0)	3.0(3.0-3.0)
	目標の明確さ	3.0(2.8-3.3)	3.0(3.0-3.0)	3.0(3.0-4.0)
	学修の停滞	3.0(3.0-3.3)	3.0(3.0-3.0)	3.0(3.0-3.3)
	学修の工夫	3.0(3.0-4.0)	3.0(3.0-3.0)	3.0(2.8-3.0)
満足感 (satisfaction)	やってよかった	3.0(2.8-3.0)	3.0(2.0-3.0)	3.0(3.0-3.0)
	すぐに使える	3.0(3.0-4.0)	3.0(3.0-3.0)	3.0(2.0-3.0)
	成果の認証	3.0(3.0-3.3)	3.0(3.0-3.0)	3.0(3.0-3.0)
	評価の一貫性	3.0(3.0-3.3)	3.0(3.0-4.0)	3.0(2.8-3.3)

得点範囲は1-4点で得点が高いほど満足度が高いことを表す

数字は中央値(四分位範囲)を示す

Kruskal-Wallis検定 p<0.05*

(3) ストーマケア演習の評価(自由記載)

40名の記述から「ストーマケア演習の評価」に関する自由記載から91記録単位を抽出した。抽出した個々の記録単位の意味内容の類似性・相違性に従い分類したところ、5項目に集約された。「装具がもったいない」が24名(26.4%)で最も多く、次いで「装具の種類がない」21名(23.1%)であった。「1～3年」では、87.5%が「わかりやすかった」と回答しており、次いで、「患者へのケア方法を知りたい」であった。「4～9年」では、40.0%が「装具がもったいない」、「装具の種類がない」と回答していた。「10年以上」では、全員が「装具がもったいない」と回答しており、次いで、「装具の種類がない」であった(表3)。

表3 ストーマケア演習の評価(自由記載)

講義の感想	n=91(複数回答あり)		内訳		
	人数	(%)	1～3年、8名	4～9年、20名	10年以上、12名
装具がもったいない	24	(26.4)	4(50.0)	8(40.0)	12(100)
装具の種類がない	21	(23.1)	3(37.5)	8(40.0)	10(83.3)
わかりやすかった	19	(20.9)	7(87.5)	5(25.0)	7(58.3)
もっと勉強したい	15	(16.5)	5(62.5)	5(25.0)	5(41.7)
患者へのケア方法を知りたい	12	(13.1)	6(75.0)	3(15.0)	4(33.3)

(4) A病院でストーマケアを確立するうえでの問題点

40名の記述から「ストーマケア演習に参加してどのような学びを得たか」が記載された記録単位のうち、A病院でストーマケアを確立するうえでの問題点について80の記録単位が抽出された(表4)。

このうち、抽象度の高いものや主語と述語が一致していないなど意味不明な記述5記録単位を除外し、75記録単位を分析した。その結果、A病院でストーマケアを確立するうえでの問題点として、17のサブカテゴリーから最終的に5カテゴリーに集約された。また、研究者間のカテゴリー分類の一致率は84.0%であり信頼性が確保された。以下、【 】はカテゴリー、〈 〉はサブカテゴリーを表す。

【ストーマケアについて学習した経験がない】には、〈看護基礎教育でストーマケアについて学ぶ機会がない〉、〈ラオス語でのテキストがない〉、〈医師に聞いてもわからない〉の3つのサブカテゴリーが含まれた。

【ストーマケアの指導方法が分からない】には、〈なぜそのような手術をするのかわから

ない)、〈どのようにケアをしたらいいかわからない)、〈誰が指導するか決まっていない)、〈入院期間が短い〉の4つのサブカテゴリーが含まれた。

【ストーマ装具がない】には、〈ストーマ装具がない)、〈ストーマ装具を購入する経済力がない)、〈ストーマ用品の代理店がない)、〈ODAで支援されても病院には来ない〉の4つのサブカテゴリーが含まれた。

【看護師の業務ではない】には、〈患者の身の回りの世話は家族が行う)、〈医師からの指示がない)、〈病棟ではストーマ造設者を把握していない〉の3つのサブカテゴリーが含まれた。

【診療録が活用されていない】には、〈患者の診療録がない)、〈ストーマケア記録用紙がない)、〈申し送りの習慣がない〉の3つのサブカテゴリーが含まれた。

表4 A病院でストーマケアを確立するうえでの現状の問題点

カテゴリー (5)	サブカテゴリー (17)
ストーマケアについて学習した経験がない	看護基礎教育でストーマケアについて学ぶ機会がない ラオス語でのテキストがない 医師に聞いてもわからない
ストーマケアの指導方法がわからない	なぜそのような手術をするのかわからない どのようにケアしたらいいかわからない 誰が指導するか決まっていない 入院期間が短い
ストーマ装具がない	ストーマ装具がない ストーマ装具を購入する経済力がない ストーマ用品の代理店がない ODAで支援されても病院には来ない
看護師の業務ではない	患者の身の回りの世話は家族が行う 医師からの指示がない 病棟ではストーマ造設者を把握していない
診療録が活用されていない	患者の診療録がない ストーマケア記録用紙がない 「申し送り」の習慣がない

(5) A 病院の看護師が求めている支援内容

40名の記述から「ストーマケア演習に参加してどのような学びを得たか」が記載された記録単位のうち、A病院の看護師が求めている支援内容について44の記録単位が抽出された(表5)。このうち、抽象度の高いものや主語と述語が一致していないなど意味不明な記述2記録単位を除外し、42記録単位を分析した。その結果、A病院の看護師が求めている支援の内容として、9のサブカテゴリーから最終的に4カテゴリーに集約された。研究者間のカテゴリー分類の一致率は82.5%であり信頼性が確保された。以下、【 】はカテゴリー、〈 〉はサブカテゴリーを表す。

【知識の習得】には、〈看護の知識を増やしたい)、〈ストーマケアをもっと知りたい)、〈創傷ケアに関心がある〉の3つのサブカテゴリーが含まれた。

【定期的な支援体制の構築】には、〈院内の医療設備への援助)、〈継続的に来てほしい〉の2つのサブカテゴリーが含まれた。

【ストーマ用品の入手経路の確立】には、〈ラオス国内での入手ができるようにしたい)、〈購入しやすい価格設定の必要性〉の2つのサブカテゴリーが含まれた。

【他の国の看護師との交流】には、〈他の国の看護の現状に興味がある)、〈他の国の医療の現状を見てみたい〉の2つのサブカテゴリーが含まれた。

表5 A病院看護師が求めている支援の内容

カテゴリー (4)	サブカテゴリー (9)
知識の習得	看護の知識を増やしたい ストーマケアをもっと知りたい 創傷ケアに関心がある
定期的な支援体制の構築	院内の医療設備への援助 継続的に来てほしい
ストーマ用品の入手経路の確立	ラオス国内での入手ができるようにしたい 購入しやすい価格設定が必要である
他の国の看護師との交流	他の国の看護の現状に興味がある 他の国の医療の現状を見てみたい

文献

1. J.M.ケラー, 鈴木克明(訳)(2010): 学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン, 北大路書房, 京都, 47-49.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 古川智恵、荻野妃那、ボンサワン・ヌードンドット	4. 巻 20
2. 論文標題 ラオス人民民主共和国にあるA病院に勤務する看護師へのストーマケア教育の評価と今後の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育実践科学研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 155-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 古川智恵
2. 発表標題 ラオス民主共和国にあるA病院看護師を対象としたストーマケアシミュレーション演習の評価
3. 学会等名 第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	森 京子 (Mori Kyoko) (90453084)	名古屋学芸大学・看護学部・講師 (33939)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------